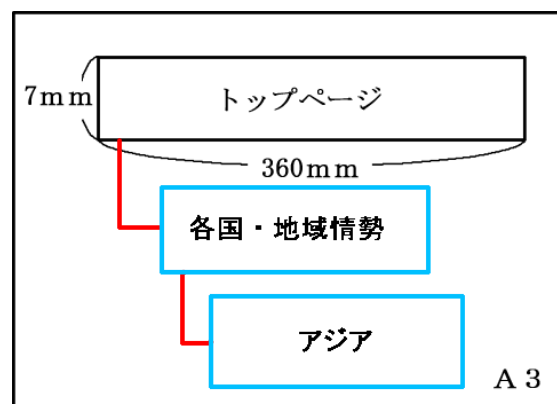


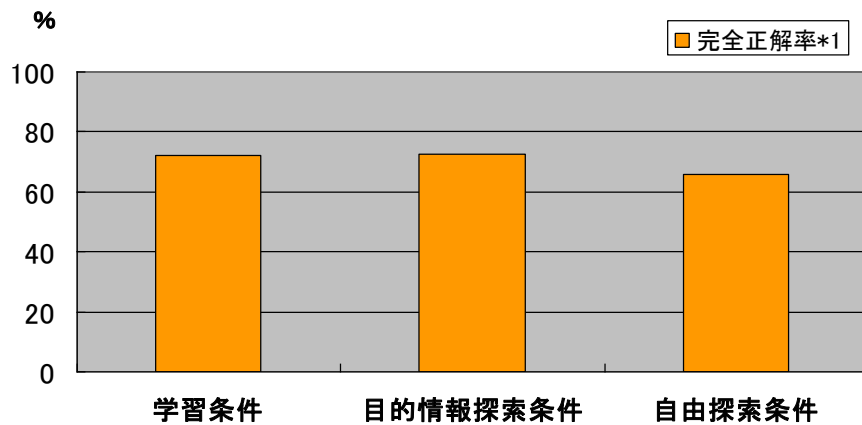
WorldWideWeb は現在、その膨大な情報と即時性により情報探索の強力な手段のひとつとなっている。情報源である Web サイトなどはユーザビリティの向上に努めているが、必要な情報を的確に見つけるためにはユーザ側の適切な情報探索も不可欠である。WWW における情報探索は、検索エンジンを用いた Web サイトの探索と、Web サイト内部の探索に分けられるが、このうち Web サイト内部における探索では、課題分野の専門知識が探索に影響することが明らかになっている (Lazonder, 2000)。さらに、同一サイトの探索を繰り返すことによって解答にいたるまでの探索時間やクリック数が減少することが分っている。これはサイトの情報アーキテクチャを学習することによると示唆されている (家木, 2006)。

そこで本研究では、情報アーキテクチャの中でも、サイトにどのようなページが存在し、そのページ間のリンク関係がどうなっているかというサイト構造についての的を絞って、サイト探索の目的の違いとサイト構造の把握度、そしてその後の探索の間関係を調べた。まず、買いたい車について調べるときのような特定の情報の探索をする条件 (目的情報探索条件) と、レポートを書くために情報収集をするときのような漠然とした情報の探索をする条件 (自由探索条件) とをサイトを探索する条件として設け、比較するためにサイト構造を学習するために探索をする条件 (学習条件) も加えた。実験協力者にいずれかの条件で探索を行ってもらい、閲覧したページ数を数えた。その後サイト構造の把握度を調べるためにサイト構造を図に再生してもらい、再生できたページの内、実際にサイトに存在しかつ上位ページとのリンクも正しく再生できたものを完全正解ページとして、ページ数を数えた。その後再度同一サイトで特定情報を探索 (事後探索) してもらい、解答までにかかった時間を測定した。

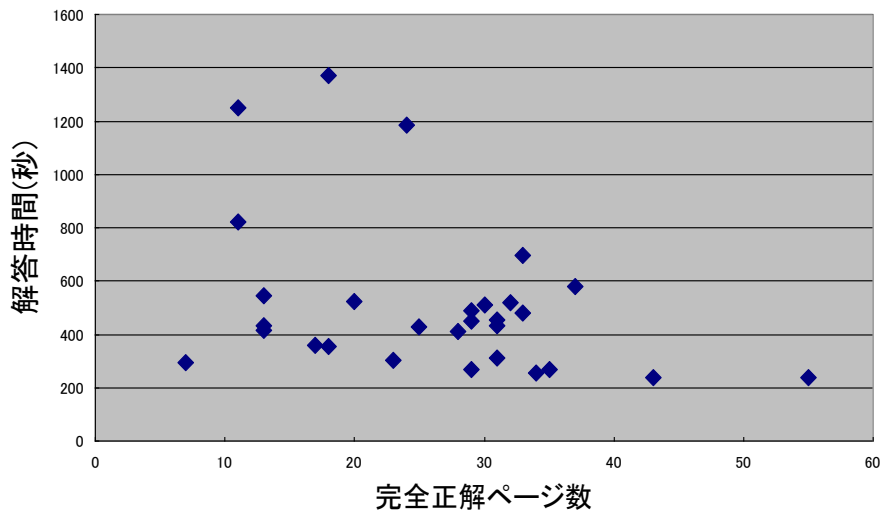


図：作図例

実験の結果、最初の探索の閲覧ページ数は学習条件で最も多く、それに関連してサイト構造の再生でも学習条件の成績が良かった。しかし、閲覧したページのうちどれだけのページを再生できたか調べるために、完全正解ページ数を閲覧ページ数で割ったものを完全正解率として計算したところ、条件による違いはなかった。また、サイト構造の再生成績が良かった実験協力者ほど、事後探索の解答時間が短くなる傾向が見られたが、探索条件で差はなかった。



図：完全再生率



図：完全正解ページ数と解答時間の散布図

以上の結果より、学習条件以外の探索でも学習条件と同程度ページ内容やリンク関係の学習を行っていると考えられる。また、事後探索の解答時間がサイト構造図の成績と関係する一方、条件間では違いがないことから、学習条件は多くのページを閲覧、再生しているが、次の探索に結びついておらず、サイト構造は探索の中で学習したほうが、その後の探索に対して有効であることを示唆している。

(指導教員 森田ひろみ)